

CONTENTS

■ 巻頭インタビュー

2 学校法人五島育英会 東京都市大学
横浜キャンパス 外灯および7号館の照明

学校法人五島育英会
東京都市大学グループ
総務局 施設部 施設課
専任課長
木村 俊朗 様

学校法人五島育英会
東京都市大学グループ
総務局 施設部 施設課
課長
廣澤 勇太郎 様

5 学校法人五島育英会 東京都市大学
横浜キャンパス 外灯および7号館

特集 教育施設の照明

■ 施設例

6 令和7年度須賀川市立学校校舎照明改修業務

■ ライティングシーン施設例

- 8 横須賀芸術劇場 大劇場
10 仙台市地下鉄南北線 泉中央駅等5駅
(広瀬通駅 星空のプロムナード)
12 東庄ゴルフ倶楽部

■ Information

14 パーチャル施設案内サービス
VirtuaVista (バーチャビスタ) のご紹介

巻頭インタビュー

学校法人五島育英会 東京都市大学
横浜キャンパス 外灯および7号館の照明

学校法人五島育英会 東京都市大学が、横浜キャンパスに新校舎となる7号館を新築するとともに構内外灯の照明リニューアルを実施。その詳細について都市大全体の施設を担当されている木村 俊朗様と横浜キャンパスを担当されている廣澤 勇太郎 様にお話を伺いました。



学校法人五島育英会
東京都市大学グループ
総務局 施設部 施設課
専任課長
木村 俊朗 様



学校法人五島育英会
東京都市大学グループ
総務局 施設部 施設課
課長
廣澤 勇太郎 様



駐車場側から車両門方向を望む LED街路灯全周配光タイプ①を車両門から駐車場にかけて設置

環境への取り組みを軸に発展してきた横浜キャンパス。

—はじめに東京都市大学および横浜キャンパスの概要についてお聞かせください。

廣澤 東京都市大学は「公正」「自由」「自治」を建学の精神として1929年に創立された、理工系をはじめとする総合的な学びを展開している私立大学で、現在は世田谷キャンパスと横浜キャンパスを中心に、全体で約8,000人の学生が学んでいます。横浜キャンパスは武蔵工業大学時代の1997年に開設され、環境学部、メディア情報学部、デザイン・データ科学部などが設置されており、学生や教職員など約2,400人が利用しています。キャンパス開設当初から環境への配慮を重視しており、大学として国内で初めてISO14001認証を取得し、教職員だけでなく学生も参加する「ISO学生委員会」を中心に、継続的な環境活動を実施しています。主な設備

としては、校舎における底による日射制御や雨水利用、照明では人感センサーの採用など、環境負荷低減につながるさまざまな取り組みを早い段階から導入し、近年では太陽光発電設備や小型風力発電設備も整備しています。

学び方の変化に対応できる空間づくりを意識した7号館。

—2026年3月に完成した新校舎7号館について教えてください。

木村 大学では現在、世田谷キャンパスを含めたキャンパス再整備計画を進めていますが、新たに設置されたデザイン・データ科学部の拠点としての役割を担うと同時に、将来的なキャンパス再整備にも柔軟に対応できる施設として、7号館の建築が計画されました。

廣澤 「完成がゴールではなく、建物自身が成長し続けること」をコンセプトに、「環境への配



車両門付近から7号館を望む 車両門からバスロータリーを通り駐車場に繋がる車道に沿ってLED街路灯全周配光タイプ①を4台設置して明るいアプローチ環境を実現

慮」「オープンな学習環境」「将来への拡張性」という3つの視点を重視して建てられました。7号館では学び方そのものの変化に対応できるよう工夫しています。デザイン・データ科学部の研究室のほか、カフェ機能を備えた交流空間と多目的ホール、間仕切りを備えたグループワーク室、ものづくりを体験できるワークスペースなどで構成され、教室で講義を受けるだけでなく、学生同士が議論し、試作し、アイデアを形にできる環境を目指しました。研究室前の壁面もガラス化し、建物全体に自然光が行き渡るよう設計しています。

外灯照明リニューアル計画の出発点は「防犯性と安全性の向上」。

—今回の外灯照明リニューアルはどのような経緯で始まったのでしょうか。

廣澤 新校舎建設とは別に2023年頃から、安全や防犯といった視点からキャンパス構内の照明環境の改善について話し合ってきました。以前の横浜キャンパス内は、夕方以降になると全体的に薄暗くなり、学生が多く利用する中庭などの動線でも十分な照度を確保できていない

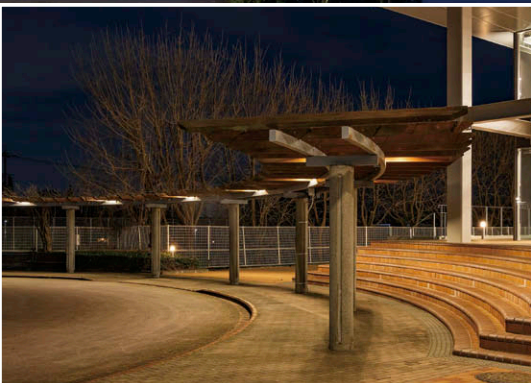
箇所もありました。冬場は16時頃から暗くなり、場所によって明るさに大きな差があり、研究や課外活動を終えて帰る学生や教職員からも不安の声が聞かれていました。

木村 実際、既存の庭園灯や街路灯は2027年には設置から30年経過し、老朽化が進んでいましたし、台数も多くなかったんです。しかも植栽に与える悪影響を懸念して一部の照明を消していた時期もありました。そこで、新校舎の完成を契機に、キャンパス全体の夜間環境を見直すということになり、新築の7号館前にあるバスロータリーや、通用門から伸びる道路間の照明も改善し、車や人が入ってきた時に明るいアプローチを作りたいと考えました。

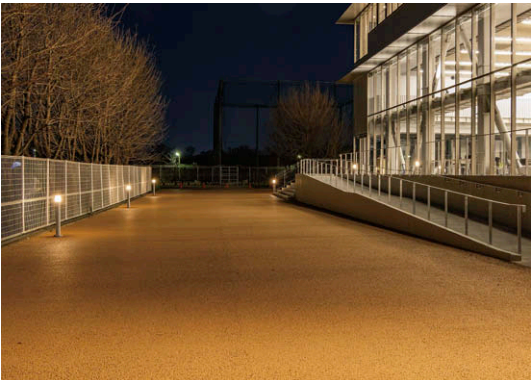
安全性と新校舎との調和を意識した照明設計。

—当初の外灯リニューアル計画はどのようなものでしたか。

廣澤 初期の案では白色光と電球色を使い分ける計画でした。車両門から入ったところやバスロータリー、中庭を電球色で温かみを出し、周りの車道などは昼白色にするという提案をい



バスロータリーの照明 ロータリーを囲む藤棚にLED小形角形投光器②を14台設置



7号館とテニスコート間の通路の照明風景 電球色のLEDガーデンライト③を採用

ただき、スタートしました。しかし7号館新築の計画が進む中で、新築棟を電球色を基調にすることになったため、7号館の建築デザインや夜間景観との統一感を優先し、最終的な提案に至るまでに今回の外灯改修工事はすべて電球色で統一する方針に変えました。

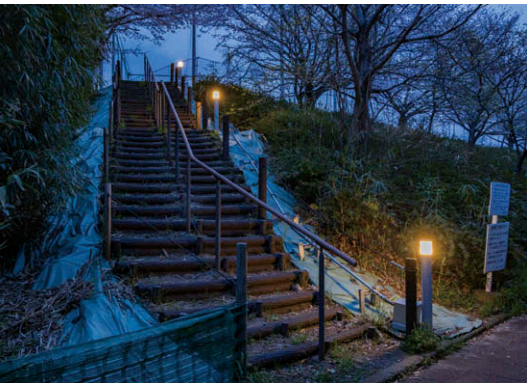
木村 既存設備の多くは設置から30年が経過し、ポール自体の老朽化も進んでいたため、単



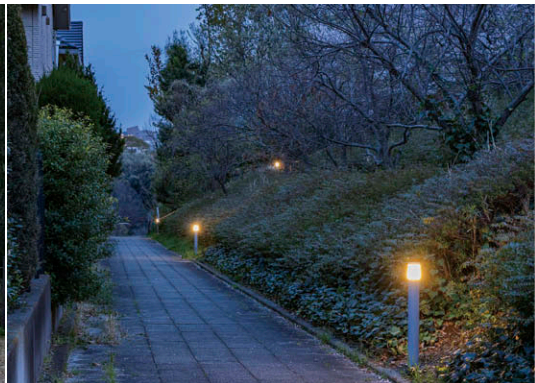
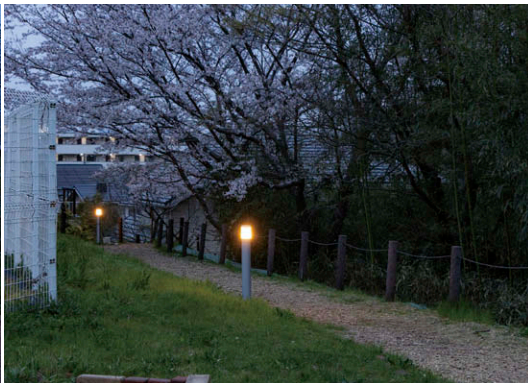
公開空地の照明風景 遊歩道の中継点にある休憩スペースに設置したLED街路灯全周配光タイプ③



駐車場付近の照明風景 7号館の裏側にあたる車道に設置したLED街路灯横長配光タイプ④



遊歩道の照明風景 以前は夜間に真っ暗になっていた遊歩道(左写真・中央写真)および隣接私道(右写真)もLEDガーデンライト⑤を設置して明るさを確保



なる器具の交換ではなく、照明計画そのものを一から再設計するカタチで進めました。ポールの色もはじめは黒の提案でしたが、コンクリートの色に馴染むシルバーに変更し、フラッグアームも取り付けました。アーム取り付けはすでに世田谷キャンパスで実施しているので、新しいポールを立てるのならフラッグをつけられるようにしたいとお願いしました。

一進めていく中で計画はかなり変更されたようですね。

廣澤 外灯の照明器具配置は、初めの提案では少し過剰でしたので、防犯上のバランスや全体のコストも考慮して、数を半分ほどに減らしました。明るさを追求するのではなく、真っ暗ではなく通りに明かりがある程度を確保するカタチにしました。それでも以前と比べて環境が変わり、散歩する方も安全に歩けるようになりました。

木村 建築学科の教員からもさまざまな助言をいただきました。特に色温度については、防犯上も暖色系の方が顔の表情や人の動きが把握しやすいという考え方もあり、暖色系照明を中心とした外灯構成に変更されています。完成してみると、新校舎から漏れる光ともよく調和していて、想像以上に落ち着いた空間になりました。

一2期工事で予定されている中庭の器具配置も変更されましたね。

木村 当初は中庭の動線中央部にポールを4

台並べる配置でしたが、学園祭などのイベント時にテントを並べるのに邪魔になるということで、両サイドに寄せて周りを明るくする設計に変更しました。これは学生の団体や担当部署からの意見を聞いて反映したものです。照明器具は同じ出力で、前面に光が広がりやすいものを採用する予定です。

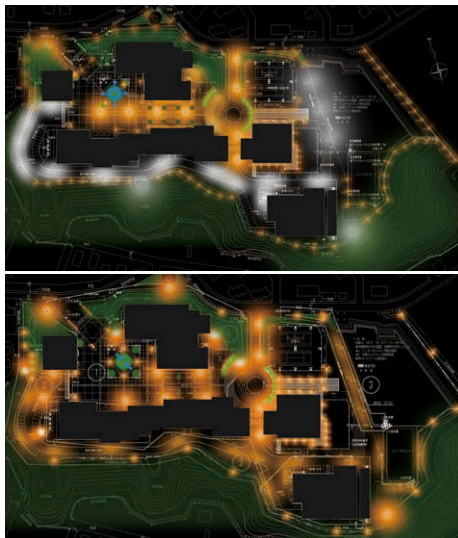
地域の安全や快適性向上にも配慮したキャンパスづくり。

一地域との関わりという面でも特徴的な計画だと伺っています。

廣澤 そうですね。キャンパス内には近隣住民の方も利用できる公開空地や遊歩道があり、学生や教職員だけでなく、地域住民の方々が散歩や通行にも利用しています。今回の新校舎建設にあたり大学では近隣説明会を行いました。その際、地域の方の声に「夜は暗くて怖い」というものがあり、大学側でもキャンパス内の外灯照明改善を検討していた時期でしたので、そのご意見を計画に反映しました。はじめは計画になかったキャンパス東側の隣接道にガーデンライトを配置したことも、地域の安全や快適性向上に貢献したいという思いがあったからです。

一照明リニューアル後の学生や職員の反応はいかがでしょう。

廣澤 まだキャンパスの半分程度のリニューアルが終わっただけですが、非常に好評です。車両門周辺やキャンパス中央部については「印象



外灯リニューアル計画の変遷

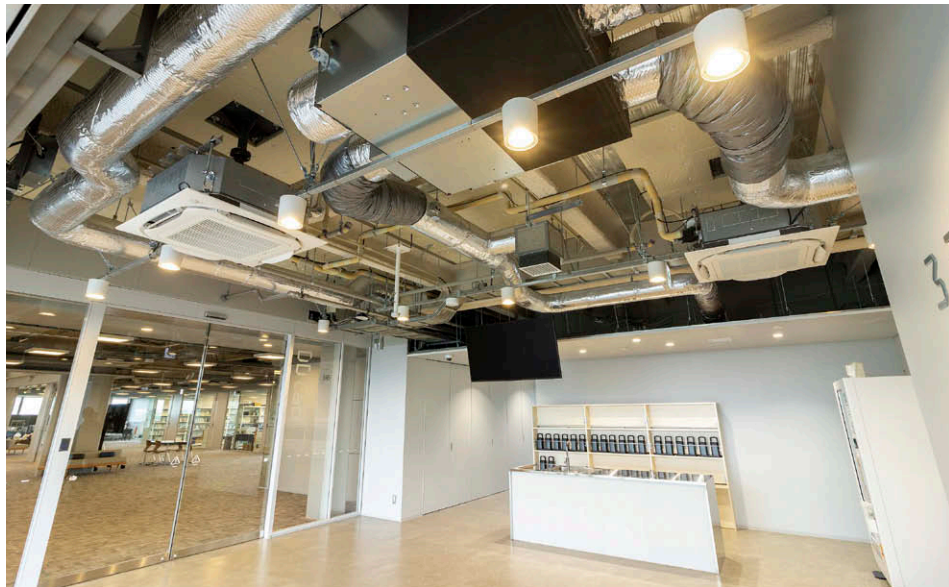
2期工事を含む当初計画(上)では昼白色と電球色の使い分けで提案されていましたが、複数回の計画改善を経て最終案(下)ではすべてを電球色器具に変更。

が大きく変わった」という声を多くいただいています。特に学生からは「スマホのライトを使わなくても歩けるようになった」という感想がありました。キャンパス内を見回る警備員からも、「巡回しやすくなった」という評価をいただいています。夜間の移動に対する安心感は確実に向上したと思いますし、運営や安全管理の面でも大きな効果がありました。

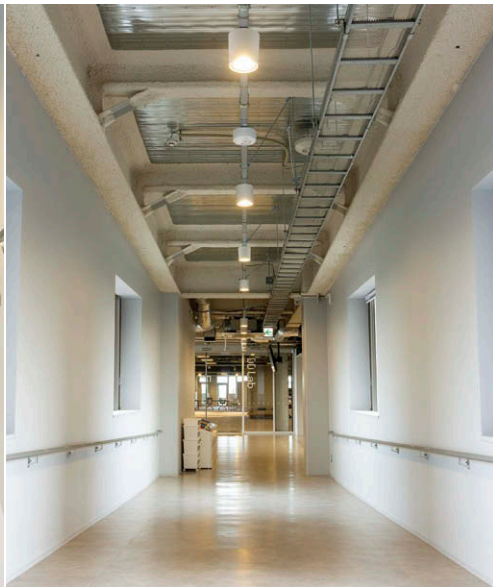
横浜市の港北ニュータウンにある横浜キャンパスは、1997年に前身である武蔵工業大学時代に開設された環境分野を重視した教育拠点で、1998年に日本の教育機関で初めてISO14001認証を取得した「エコ・キャンパス」です。2009年の大学名変更後は学部再編が進み、現在はIT設備も充実。環境・情報・データ分野を中心とした文理融合の学びができる自然豊かなキャンパスです。



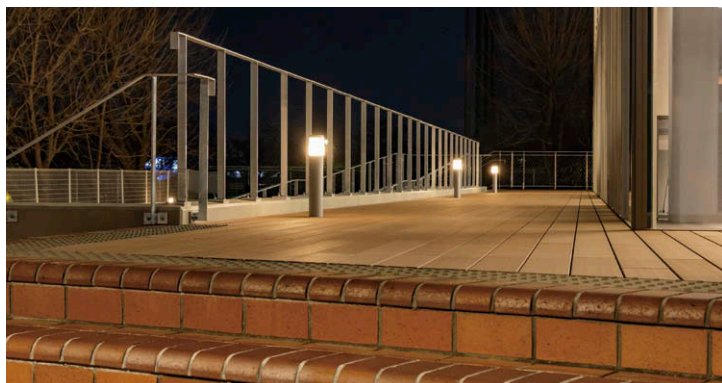
【物件概要】
所在地：横浜市都筑区牛久保西3-3-1
敷地面積：64,688㎡
緑地面積：26,927.37㎡
構造・規模：7号館／鉄骨造、地上4階塔屋1階建
建築面積：7号館／1,484.31㎡(既存3号館含む5,004.01㎡)
延床面積：7号館／5,285.68㎡(既存3号館含む18,668.43㎡)
施主：学校法人五島育英会
施工：建築／東急建設株式会社(7号館)
施工：電気／旭日電気工業株式会社(7号館)
東急テクノシステム株式会社(外灯)
竣工：外灯／2027年3月予定 7号館／2026年3月



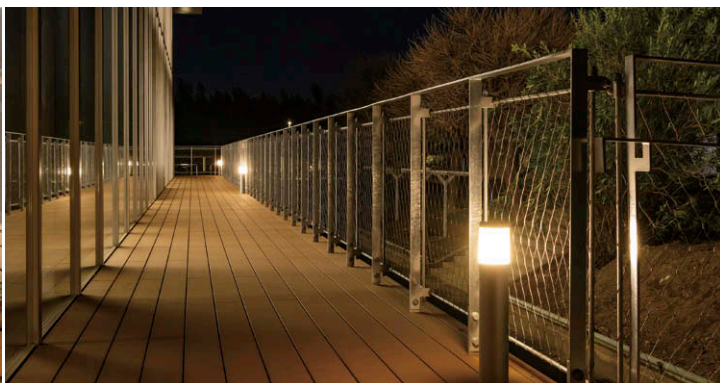
7号館3階ロビーの照明 高効率タイプのLEDダウンライト直付シーリング⑥を採用



7号館と3号館を結ぶ渡り廊下の照明



7号館1階デッキの照明風景 館内照明に合わせて電球色で統一したLEDガーデンライトLED電球タイプ⑤



光を活用した新たなキャンパス体験へ。

一2期工事に向けた今後の展望について教えてください。

木村 外灯照明のリニューアルは当初3期計画でしたが、コスト圧縮などもあり2期で全体を完了することになりました。現在1期を終えて、計画では過剰だった配置を見直して絞れたことや、実際に光の広がり方を見て「これならいける」という確信が持てたことがよかったですね。

廣澤 2期工事は10月以降に始まり年明けに

は完了します。キャンパス全体の照明環境をさらに改善し、まだ暗さが残るエリアの整備を進めていく予定です。また、正門の正面に立つシンボルツリーにフルカラーLEDによる演出照明も導入します。現時点では季節やイベントに応じて運用することを考えていますが、学生から新たなアイデアが出てくることも期待しています。ちょうど来年が横浜キャンパス開設30年にあたりますので、よい節目でのリニューアルになると思います。卒業生にも「雰囲気が変わった」と言ってもらえたら嬉しいですね。



フルカラーLED演出照明(2期工事予定)イメージ

一本日はお忙しい中、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

(2026年6月5日 取材)

主な掲載器具一覧					
設置場所		器具名(品種名)	形名	台数	消費電力
屋外	①	LED街路灯 全周配光タイプ400W形水銀ランプ器具相当	LEDG-15850N(S)(改)	8	92.7W
	②	LED投光器 小形角形投光器 LEDSシリーズ2,500lmクラス35W形コンパクトメタルハライドランプ器具相当 重耐塩形 横長タイプ	LEDS-02910LX-LS9	14	19.0W
	③	LED街路灯 全周配光タイプ250W形水銀ランプ器具相当	LEDG-10851N(S)(改)	1	38.0W
	④	LED街路灯 横長配光タイプ250W形水銀ランプ器具相当	LEDG-10855L(S)	11	36.5W
	⑤	LEDガーデンライト(LED電球タイプ) ポール径φ100	LEDG88906(S)	65	7.8W(100V)
屋内	⑥	LEDユニット交換形ダウンライト 直付シーリング 白色 高効率タイプ2000シリーズ	LEKG203421L-LD9	104	14.0W